

編 集 後 記

今、私の手元に『岡崎高等師範学校五十年誌』という記念誌があります。ばらばらと見ているうちに、あちこちと興味深く読んでしまいいました。

その序文の中に「岡崎高師のピンチ（困難）が、実はチャンス（幸運）に転換していた」とあります。

ピンチは敗戦直前の四月の創設から始まりました。七月の入学式直前の仮校舎の空襲による焼失、校舎・寄宿舎を求めてのその後の流転、戦後の食料事情、十二月末の二十五キロ離れた豊川への移転、と続きまして。そして、岡崎高師は、卒業生を四回、六百余人送り出し、学制改革

によって七年間で閉校しました。

初代水野敏雄校長は、当時を回想して、「転変極まりない在任一年余は私にとつては五年、十年の歳月に相応する、人生の喜怒哀楽の結集した期間であつたように思われる」と書いています。

異色の教員養成をめざす学校を築こうとした水野校長には、随所で魅力を感じました。「教師が助産婦として、共に学ぶ態度に徹することが肝要なり」とも書いています。

このような、教官と学生がピンチを共にする過程を読んでいると、この学校が「共に生きることを学ぶ」学校に発展していく「プロセス」になってみえてきます。

「共生の学舎」の体験が、その後の卒業生のチャンスにつながつたのだと思ひました。

(A)

幼 児 の 教 育

第七十九巻 第八号

(二〇〇〇年八月号)

定価五五〇円(本体五二四円)

発行 平成十二年八月一日

編集兼発行人 田代和美

発行所 日本幼稚園協会

〒112-8610 東京都文京区大塚二丁目一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

印刷所 図書印刷株式会社

〒108-8620 東京都港区三田五丁目二丁目

発売所 株式会社 フレーベル館

〒113-8611 東京都文京区本駒込

六一四一九

〒〇三三三三三九五六六〇三(営業)

〒〇三三三三三九五二六六〇四(編集)

振替 〇〇一九〇一〇一〇一九六四〇

☆ 本誌ご購入のご注文は発売所「フレーベル館」にお願いいたします。

☆ 万一、乱丁・落丁などがございましたら、おとりかえいたします。